



令和5年8月24日 発行
北杜市立武川中学校 学校だより
校長 萩原 長人

学校 HP <http://mukawajhs.main.jp>

二学期の抱負 ～各学年代表より～

長い夏休みも終わり、二年生には転入生も迎え二学期がスタートしました。暑い中でも、部活動の練習や大会、コンクール、学習会や学年登校日と生徒たちは頑張りました。始業式の中で、「この夏の日々を過ごしてきたことと同じように、これからも1日1日を大事にして、学校生活や行事を充実させよう。」といった話をしました。学年代表の生徒が夏休みの思い出や二学期に向けた抱負を発表しました。気持ちのこもった素晴らしい発表でした。以下代表生徒の話の紹介します。



1年生 田中優柚さん 「二学期の抱負」

1学期はまだ慣れない中学校生活と、部活、勉強に苦戦した。それでも何とか1学期を終え今2学期を迎えた。2学期は何といっても瀬音祭がある。まだイメージはわからないが、学年の発表に関しては、少しずつだが取り組みが始まっている。私自身もキャストとして大事なシーンを任されている。セリフも多いし、観客にしっかりイメージをしてもらえようような演技ができればと思う。また、部門の取り組みや全校合唱・全校表現などまだまだイメージすらわからないが、先輩方の姿を見ながら少しずつ慣れて、楽しんで取り組んでいきたい。私たち1年生は合唱においても、生活においてもまだまだ先輩方に追いつかないところが多くあるけれど、いつもでも背中を追っているだけではだめだと思う。いつか先輩たちも卒業していく。そのあとは私たちがこの武川中を作っていくなくてはならない。その日までに私たちは力をつけて、伝統を引き継げるような存在になっていきたい。また勉強面でも、私自身もまだまだ課題があり、勉強の仕方や、日々の取り組みをもっともっと向上させていきたいと思う。中学校に入って一番変わったことは行事などの取り組みや、行動を自分たちで気づいて考えて行動していくことではないかと思う。言われてから、言われるがまま行動するのではなく、自分たちで先を見て、気づき、自分たちなりの工夫を考えて、率先して行動していける学年になっていきたいと思う。今学期もそんな成長できる楽器にしていきたいと思う。



2年生 佐藤一芽さん

その時私の足は震えていました。頭は真っ白で自分のピアノの音も聞こえませんでした。さかのぼること二ヶ月前、横森先生から「暇があるか」と聞かれ何かを察した私はとっさに「暇ですが、何もしませんよ。」と答えました。しかしなぜか私は自分の意思で、吹奏楽コンクールで吹奏楽部の助っ人としてピアノを弾くことになりました。コンクールまでの間、週二回のピアノと放課後や休日の部活動の練習が始まりました。ピアノを一人で弾く時はすべてが自分の責任ですか、吹奏楽は自分のミスが全体のミスにつながります。助っ人の私は、みんなの足を引っ張ることが怖くなりました。私はピアノのパートを確実に弾けるよう毎日練習しました。みんなと初めて曲をあわせたときは、安心と様々な楽器の音が重なることに感動を覚えました。この短い期間で一人ひとりの特徴あるパートが、一つの音楽を創る魅力が私にも少しずつ分かってきました。そしてみんなで迎えた本番、緊張でいっぱいだった私は、舞台上に吹奏楽部のみんながいてくれたことで、今までの力を出し切ろうと思い弾くことができました。金賞というご褒美ももらえて本当にほっとしました。終わった後にみんなに助っ人としての私に感謝の言葉を伝えてもらいました。あの時、私は、気持ちは部員の一人でした。私を誘ってくれてありがとうございました。この夏、私は武川中学校でなかったらできない経験をしました。



二学期も主体的には性格上無理かもしれませんが、自分なりに頑張りたいと思います。

3年生 星そらさん 「二学期の頑張りたいこと」

私が二学期に頑張りたいことは、瀬音祭文化部門と音楽発表会と受験勉強です。なぜかという、瀬音祭体育部門前に体調が悪くなってしまい本番当日も体と相談しながら行っていたため競技に全集中する事が出来なかったからです。文化部門の方は体調管理をしっかりして悔いのないものにしたいと考えています。音楽発表会は、中一・二年生の時はずっと客席でみんなの発表を見ていたので今年はみんなと一緒に最高の音楽を発表できるように頑張りたいです。そして、言わずもがなですが受験勉強を頑張りたいと思っています。やる気、元気がなかなか出なくて、体調もあまり良くない事が多いのですが後期入試まで約あと半年、前期入試 だともう半年を切っているので体のことも考えつつ入試に向けて頑張っていきたいです。

